



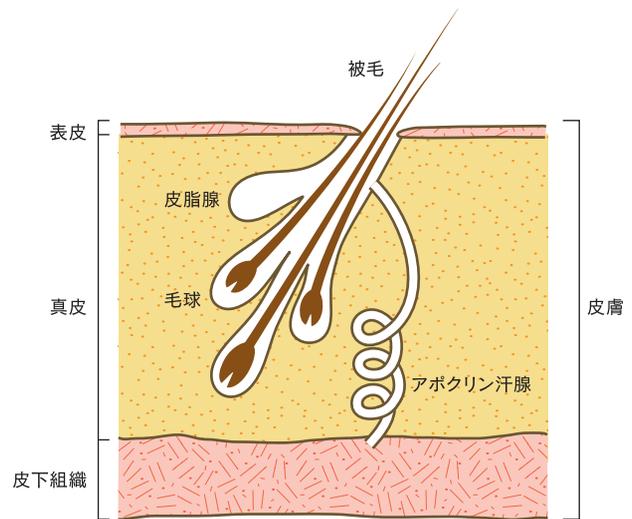
暑さに弱いワンちゃん・ネコちゃんのために・・・

生態から考える夏場対策!!

ワンフーご愛用の方は充分ご存知かも知れませんが、
ワンちゃん・ネコちゃんの変わらぬ健康のため再認識して頂きたい「生態」をお伝えします。

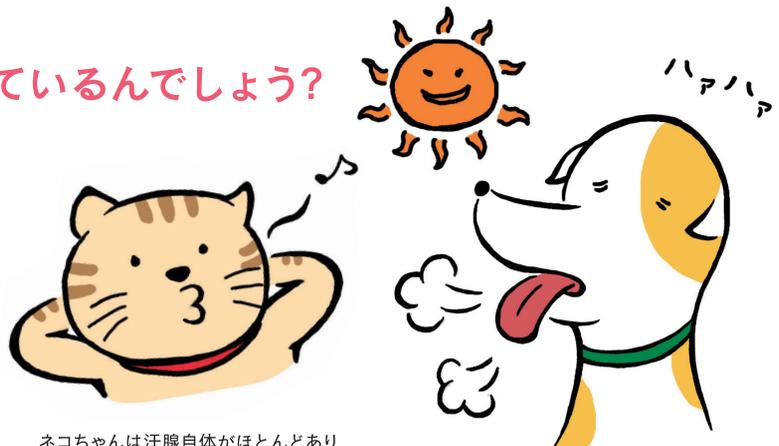
ワンちゃんの“暑さがニガテ”には “汗”が関係しています。

暑いときに人は汗で体温調節をします。その汗には大きく分けて「エクリン汗腺」から出るものと「アポクリン汗腺」から出るものがあります。運動した際のサラサラした汗は「エクリン汗腺」から、主にわきの下などにしかないのが「アポクリン汗腺」です。しかし、犬は全身に「アポクリン汗腺」があり、「エクリン汗腺」は肉球にしかありません。ですからサラサラの汗はほぼなく、脂分の多いベタつきのある汗を全身に分泌。体温調節としてはあまり機能しません。これが酸化したり、細菌に分解され、犬特有のニオイの原因にもなるのです。



では、どうやって体温調節しているんでしょう？

発汗での体温調節ができないので暑さが苦手なワンちゃんは、舌をだして「ハアハア」する「パンティング」とよばれる呼吸法で体温調節をします。口を開けて呼吸をすることによって体内にたまった熱を外に出して体温調節を行っているのです。このパンティングは犬の正常な生理現象ですが、いつもハアハアしているわけではなく、普段は犬もゆっくり呼吸します。ですから、夏場でもあまりにずっと「ハアハア」している様子であれば気をつけなくてはなりません。



ネコちゃんは汗腺自体がほとんどありません。犬と同じように「ハアハア」して体温調節もしますが、比較的体が小さいので暑さには強いようです。

ワンちゃんは発汗での体温調節ができないので暑さが苦手。舌をだして「ハアハア」して体温調節。

では、汗はしっかり洗ってしまえばいいのでしょうか？

ワンちゃんの皮膚にはほとんど皮脂がありません。ヒトと違って皮脂が皮膚表面を保護しているわけではないのです。ですから、夏場だからといってシャンプーで皮膚をゴシゴシ洗いすぎたりすると、皮膚は簡単にダメージを受けてしまい炎症の原因などになってしまいます。また人間の場合は、皮膚を洗って皮脂が失われても、30分～数時間程度で元の状態に戻りますが、ワンちゃんの場合は、シャンプー後に皮脂が元の状態に戻るのに72時間程度かかってしまいます。夏場だからといってシャンプーしすぎは禁物です。

だから特にワンちゃん、もちろんネコちゃんも 夏場対策は重要です!!

ネコちゃんもワンちゃんに比べて暑さに強いとはいえ、人間よりはとても暑さに弱いのです。ワンちゃんもネコちゃんも以下のような点に気をつけて夏を乗り切りましょう!!

ヒト	死ぬほど寒い!	寒い	涼しい	快適	暖かい	暑い
犬・猫	寒い	涼しい	快適	暖かい	暑い	死ぬほど暑い!

①暑さへの対策

室内犬であれば適度な温度と湿度を保ち、屋外犬の場合はできれば犬小屋自体の場所を、夏場用に移動するなどしてできるだけ涼しい環境を作ってあげましょう。

- 犬小屋を日陰で風通しの良い場所へ移動する
- 犬小屋の天井と床を高くし換気よくする
- 犬小屋にスタレなどをかけて日陰をつくる
- 水をたっぷり用意する

②日射病、熱中症への対策

炎天下での散歩は絶対にしないようにしましょう。日中のアスファルトは熱く焼けており、50℃以上の高温なることもあります。人間より地面に近いところを歩くワンちゃんにとっては地面からの照り返しの熱により苛酷な環境です。

- 散歩や運動にはできるだけ芝生・土の上を選ぶ
- 外出時につなぐときは日陰の場所を選ぶ
- 飲み水を欠かさない

③皮膚トラブルへの対策

ワンちゃんにより個体差がありますが皮膚を刺激しすぎない程度の間隔でシャンプーをするように心がけましょう。一般的には2週間から1ヶ月に1回程度が良いようです。もちろん人間用のシャンプーは重大な皮膚疾患を招く可能性があるため絶対に避け、専用のシャンプーを使用しましょう。

④夏バテへの対策

特に、幼犬や老犬は運動量を減らして体力を温存しましょう。食欲のないワンちゃんには、水分の多い栄養補助食(ワンフーグルメなど)をトッピングして食欲を刺激するとよいでしょう。

医食同源
コラム

病気学から健康学へ

動物も人間も、否、地球上のあらゆる生き物は、生命体としての宇宙の生命維持の為の法則に従わずには生きていけない。時に法則に従わず、そのずれた部分が肉体的・精神的に病気として現れる。

法則とは何か、簡単に言うならば、[食べて]、[活動して]、そして[眠る]の3つ。動物も、人もはるか太古の昔からこの法則に従って生きてきた。しっかり食べて、思い切り活動して、ぐっすり眠る、簡単そうに思えてこれがなかなかできない。

飼っている犬や猫たちにも、食事はおやつを与え過ぎたり、好きなものだけや、大食いさせて余分なエネルギーから肥満を増長させてはいないだろうか?活動も散歩もさせないで部屋に閉じ込めていたり、自分の運動量を勝手に押し付けそれでよしとしたりしてはいまいか?動物の習性も理解せず、快適な睡眠時間と環境を整えてやっているだろうか?

ともあれ、獣医学も動物の病気捜しに随分と時間を費やしてきたように思える。これからは、動物も人間を生き生きと健康に生きていくために、この3原則、すなわち[食事の栄養学]、[活動の運動学]、[眠りの睡眠学]をベースに、獣医学=病気学から獣医学=健康学への転換が必要とされる。犬や猫たちも健康になったとき、真の意味で病気から解放されるのだから。

日本動物ストレス学会会長
動物介在教育・療法学会名誉理事長
北里大学名誉教授

樋口誠一



wanfoo® 環境プラント工業株式会社
ワンフー事業部

〒689-3536 鳥取県米子市高島130-1

0120-020-788

TEL:0859-37-0000 FAX:0859-37-1110

ワンフー

検索

<http://www.wanfoo.co.jp>